

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
環境技術委員長 坂本 忠彦
両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第358回)

日時 令和元年5月22日(水) 午後1時半～4時
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第2会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、「環境問題について、昨今、想うこと」
挨拶 坂本忠彦環境技術委員長
 - 2、最近の水処理・浄水化への世界的動向
解説 谷岡明彦東京工業大学名誉教授
 - 3、『環境技術関連ニュース NO.179』
解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る4月18日開催の第357回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。桜の開花後、気温が下がったため、長く花を楽しむことができた。その後、北海道が日本で一番暑い日何日かあった。これも地球温暖化の影響だろうか。さて、COPの会議では、日本も京都議定書の枠組み作りなどで貢献している。パリ協定でさらに具体的な取り組みが行われた。アメリカはトランプ大統領が脱退を表明したものの、実際に効力を発するのは1期目の任期を終えてからということになるので、仮に大統領

が変われば、脱退しない可能性もあるといわれている。それらを含めて、御解説をうかがいたい。

次に、清原淳平専務理事より、高村ゆかり東京大学未来ビジョン研究センター教授の経歴紹介がありました。次に、高村教授より、「COP24と温暖化対策の展望」について解説がありました。昨年の西日本豪雨と台風21号によって、1兆円弱の被害があった。温暖化によって、猛暑の気温は1℃、豪雨の降水量は7%増えており、それだけ異常気象の水準が上がるということになる。さらに、農業・漁業にも影響を及ぼす。パリ協定は、脱炭素化によって、気温上昇を2℃、できれば1.5℃の範囲に抑えようとしている。日本は、2030年までにCO2排出量を26%減らし、2070年までに全世界で排出0を目指している。2015年、再生可能エネルギー発電が、石炭火力発電の発電量を上回った。これには再生可能エネルギーのコスト削減が寄与している。経済成長とCO2排出減は両立しうることがわかったが、電力はエネルギー消費の20%に過ぎず、楽観視はできない。しかし、再生可能エネルギーの利用は企業にとってもプラスということが分かり、これまで先進国と途上国の間で削減量の「負担」を押し付け合ってきた議論が、相互協力に変わりつつあるのが最大の変化だと言える。日本にとっては、再生可能エネルギーはエネルギー安全保障の面からも利点があるが、他に産業の無い産油国が紛争地帯になる可能性もある。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.178』の解説がありました。今回は、○地球温暖化の影響は、乱気流の増加ももたらす、という研究結果。○経産省、国内製造業に技術情報の管理強化を求める。海外からのサイバー攻撃によって、地方の中小企業の技術情報が狙われている。適切に情報管理を行う企業には認証を与える方針。○G20の科学アカデミーによる会議が、気候変動や海洋プラスチック問題について国際的協力を進める共同声明を発表。○経産省でCO2の再利用を目指す官民協議会が始動、CO2を回収して化学製品につくり変える技術などを推進する。○CO2から医薬原料を作る技術。光で有機化合物と反応。発電所排出ガスを有効利用する。○JOGMECが、10年運用してきた三次元探査船「資源」の後継船を、4月下旬から導入開始。130億円で購入した。○などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。
次回、5月22日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。
非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。
(その際の当日会費は二千円となります。)